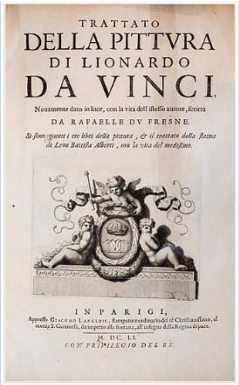
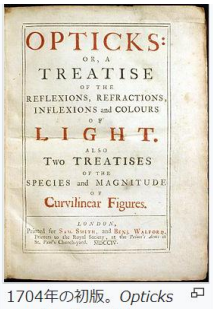
配色と色彩調和　　2022 年 8 月 skoike

１．色彩調和論（心理学的感覚である色彩調和の仕組みを体系化する取組み）の歴史

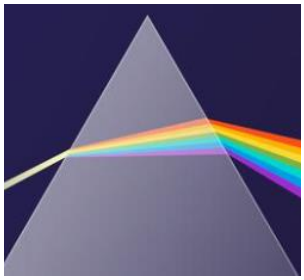
1-1. 古代ギリシア：「美は調和であり、調和は秩序である」「美は変化の中に統一を表現することである」
1-2. レオナルド・ダ・ヴィンチ：白黄緑青赤黒を 6 つの単色と定めた。白と黒・赤と緑・黄と青は互いを引立てる。
1-3. アイザック・ニュートン：スペクトルを発見、光を屈折率の違いにより 7 色の成分に分解、数量的に説明。
　以降、色彩が科学的にとらえられるようになり、色彩調和に関する議論が広まり、盛んになる。
1-4. ヴォルフガング・フォン・ゲーテ：ニュートンのスペクトル分析を批判。色彩は光と闇との相互作用によって生まれるものとし、色を心理学的な要素だとした。青と黄をもっとも根源的な色とした。

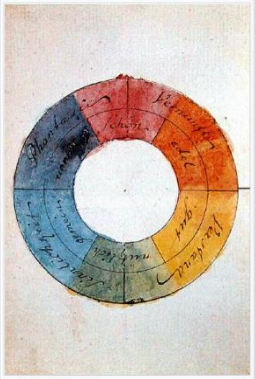


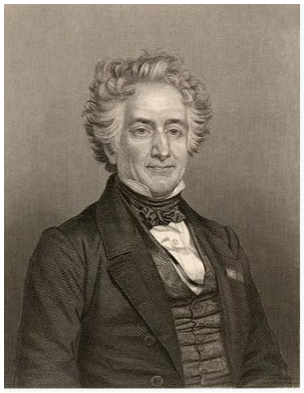
Trattato della pittura、1651年版の扉。



1704年の初版。*Opticks or a treatise of the reflections, refractions, inflections and colours of light*

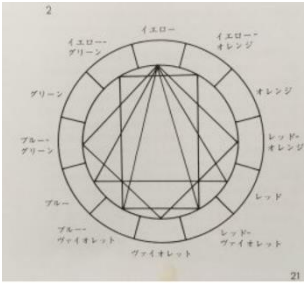



ゲーテの色彩環



1-5. ミシェル＝ウジェーヌ・シュヴルール：著書「色彩の同時対比の法則とこの法則に基づく配色について」、色彩を「類似色の調和」と「対比の調和」の 2 群に分類してジョルジュ・スーラらの新印象派に大きな影響を与えた。
　シュブルールの調和論：対比の大小によって「類似色の調和」と「対比の調和」に分け、
　　さらに色相と色調の差によって 3 種類ずつの合計 6 種類に分類する
1-6. ディーン・B・ジャッド：色彩調和論は学問として不十分とし、4 要素（「ジャッドの四原理」）に集約した。
「類似性の原理」では、『共通性がある色同士は調和する』が、それとは逆に『対照性のある色同士』も調和すると。
4 原理を要約すると、複数の色を使った配色に秩序や規則性が見られるものは共通性がある色同士でも、対照性がある色同士でも、調和を感じられるということ。色相のまとまり、トーンのまとまりを意識すると理解しやすい。

・秩序の原理：法則に基づき、規則的に選ばれた色は調和する。
・なじみの原理:自然界の風景の変化に見られる色、見慣れている配色は調和する。
・類似性の原理：共通点のある色同士は調和する。
・明瞭性の原理：あいまいな関係性でない配色は調和する。
色立体において直線上で等間隔な色の組み合わせは、等間隔でない色の組み合わせよりも秩序のある選択で、色彩調和の共感を得やすいとした。つまり色空間の中で一定の規則による色の組み合わせは調和する。「一定の規則」とは、直線・三角形・円などの幾何学模様を描く関係性を意味する。
1-7. ヨハネス・イッテン（教育者・絵画教師、理論家であり画家、バウハウスにも招聘され）「色彩論」
・12 色の色相環に基づいた色彩調和：色を色環上で幾何形体状に結びつけることで、2 色調和（ダイアッド）、3 色調和（トライアド）、4 色調和（テトラッド）という概念が示された。
・人間の眼の『同時対比』：イッテンの色相環では混色によるグレイに重点をおく。無彩色のニュートラルグレイは、眼が色相に刺激されないため、人の目に均衡状態をつくるとしている。



『色彩論』p.21 から参照

・グレイと色を組み合わせると、人間の眼が持つ色を補正、補填する特質により『同時対比』現象がおこる。
・背景色に対して、同じ明度のニュートラルグレイを置くとレッドの中のグレイは緑がかったグレイに見え、グリーンの中のグレイは赤みがかったグレイに見える。
・７つの色彩対比：イッテンが示した基本的な色彩の対比は、同時対比を含めて７つ：
　色相対比、同時対比、明暗対比、寒暖対比、補色対比、彩度対比、面積対比。

参考文献：『色彩論』ヨハネス・イッテン著　大智 浩訳　美術出版社

２．配色と心理効果

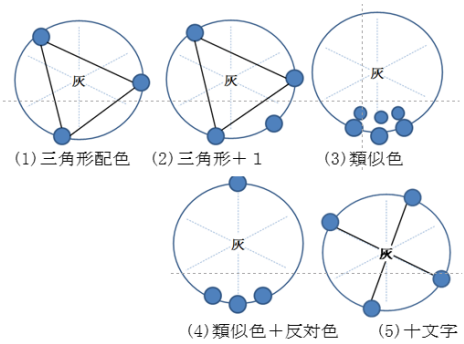
2-1. 色彩調和パターンとイメージ

・色相環の円周上で、色と色の距離が離れるほど強い配色

・色相環の円周上で、色と色の距離が近いほどおとなしい配色

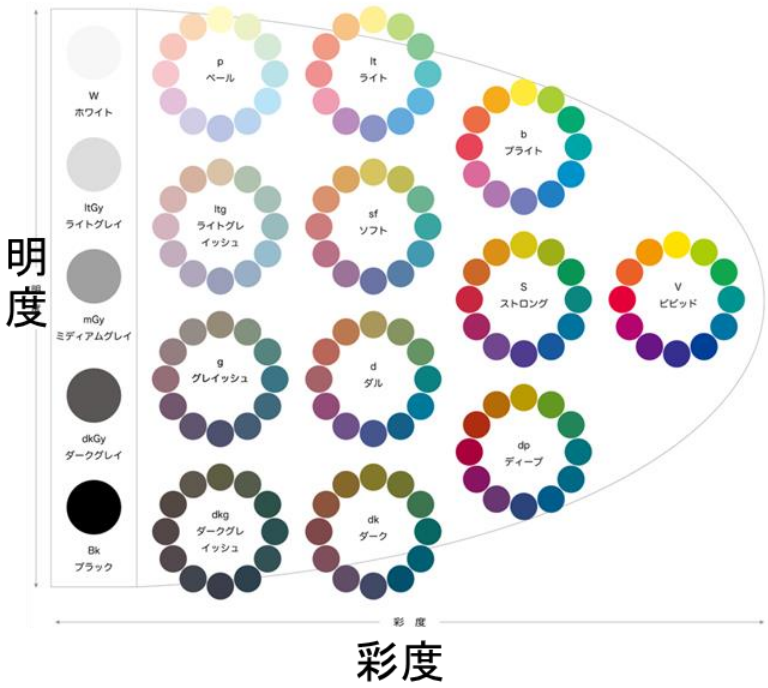
・色相環上の正反対にある色（補色）は、強い対比を生む

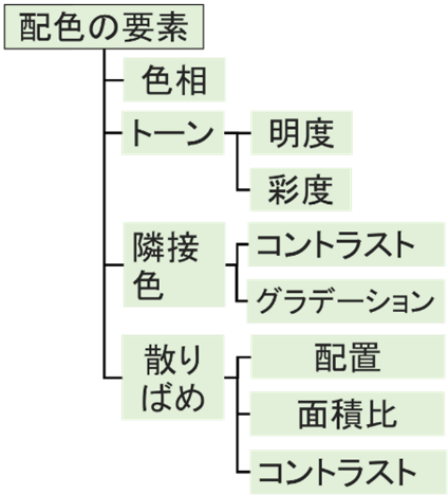
・補色同士の混色により陰影色を作るとなじむ



2-2. 色のトーンとイメージ

PCCSトーン別色相環





言葉による色のイメージ

White：清潔な、冷たい、新鮮な

Pale：薄い、軽い、あっさりした、弱い、女性的、若々しい、優しい、淡い、かわいい

Lite：浅い、澄んだ、子供っぽい、さわやかな、楽しい

Bright：明るい、健康的な、陽気な、華やかな

Vivid：冴えた、鮮やかな、派手な、目立つ、生き生きした

Strong：強い、くどい、動的な、情熱的な

Soft：柔らかな、穏やかな、ぼんやりした

Light grayish：明るい灰色みの、おちついた、渋い、おとなしい

Dull：鈍い、くすんだ、中間的色

Grayish：灰色みの、濁った、地味な

Gray：スモーキーな、しゃれた、寂しい

Deep：深い、濃い、充実した、伝統的な、和風の

Dark：暗い、大人っぽい、丈夫な、円熟した

Dark grayish：暗い灰色実の、陰気な、重い、固い、男性的

Black：高級な、フォーマルな、シックな、おしゃれな、締まった

３．絵画の配色と色彩調和を評価・活用する。

3-1.配色評価方法：評価対象の絵画に含まれる色を抽出して、PCCS トーン別色環、右の色相環に配置する。

3-2.彩色する際の配色設計への活用：自分が表現したいイメージに合うトーンと色相を予め決める時に使う。